

燕市立保育園・こども園における  
給食提供に係る食物アレルギー対応マニュアル  
**【資料編】**

(令和6年7月改訂版)

## 資 料

- 資料 1 アレルギー症状への対応の手順
- 資料 2 A施設内での役割分担
- 資料 3 B緊急性の判断と対応
- 資料 4 Cエピペン<sup>®</sup>の使い方
- 資料 5 D救急要請（119番通報）のポイント
- 資料 6 E心肺蘇生とAEDの手順
- 資料 7 F症状チェックシート

# アレルギー症状への対応の手順

\* エピペン®や内服薬を所持していない場合、その項は飛ばして次の項に進み判断する



発見者が行うこと

- ①子どもから目を離さない、ひとりにしない
- ②助けを呼び、人を集める
- ③エピペンと内服薬を持ってくるよう指示する

**A 施設内での役割分担**

緊急性が高いアレルギー症状はあるか？  
5分以内に判断する

**B 緊急性の判断と対応 B-1 参照**

ある

ない

**B 緊急性の判断と対応 B-2 参照**

- ①直ちにエピペン®を使用する **C エピペン®の使い方**
- ②救急車を要請する (119番通報) **D 救急要請のポイント**
- ③その場で安静にする
- ④その場で救急隊を待つ
- ⑤可能なら内服薬を飲ませる

反応がなく呼吸がない **E 心肺蘇生とAEDの手順**

心肺蘇生を行う

アレルギー症状	
<b>全身の症状</b>	<b>呼吸器の症状</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・意識がない</li> <li>・意識もうろう</li> <li>・ぐったり</li> <li>・尿や便を漏らす</li> <li>・尿や便を漏らす</li> <li>・脈が触れにくい</li> <li>・唇や爪が青白い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声がかすれる</li> <li>・犬が吠えるような咳</li> <li>・喉や胸が締め付けられる</li> <li>・咳</li> <li>・息がしにくい</li> <li>・ゼーゼー、ヒューヒュー</li> </ul>
<b>消化器の症状</b>	<b>皮膚の症状</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・腹痛</li> <li>・吐き気、嘔吐</li> <li>・下痢</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かゆみ</li> <li>・じんま疹</li> <li>・赤くなる</li> </ul>
<b>顔色・目・口・鼻の症状</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・顔面の腫れ</li> <li>・目のかゆみや充血、まぶたの腫れ</li> <li>・くしゃみ、鼻水、鼻づまり</li> <li>・口の中の違和感、唇の腫れ</li> </ul>	

- ①内服薬があれば飲ませる
- ②安静にできる場所へ移動する
- ③保護者に連絡する

5分毎に症状を観察し「[資料7] 症状チェックシート」に従い判断し対応する。緊急性の高い症状の出現には特に注意する

**F 症状チェックシート**

- ①こども未来課に電話で連絡する
- ②「(様式17) 食物アレルギー事故・ヒヤリハット発生報告書」をこども未来課に提出する。
- ③園医に報告する。

## A

## 施設内での役割分担

◆各々の役割分担を確認し事前にシミュレーションを行う

## 管理・監督者【園長】

- 現場に到着次第、リーダーとなる
- それぞれの役割の確認および指示
- エピペン<sup>®</sup>の使用または介助
- 心肺蘇生やA E D の使用

## 発見者「観察」

- 子どもから離れず観察する
- 助けを呼び、人を集める（大声、または他の子どもに呼びに行かせる）
- 職員A、Bに「準備」「連絡」を依頼
- 管理者が到着するまでリーダー代行となる
- エピペン<sup>®</sup>の使用または介助
- 薬の内服介助
- 心肺蘇生やA E D の使用

## 職員A「準備」

- 「食物アレルギー食対象児個別ファイル」などの関係書類を持ってくる
- 「燕市立保育園・こども園食物アレルギー対応マニュアル」を持ってくる
- エピペン<sup>®</sup>の準備
- A E Dの準備
- 内服薬の準備
- エピペン<sup>®</sup>の使用または介助
- 心肺蘇生やA E D の使用

## 職員B「連絡」

- 救急車を要請する（119番通報）
- 管理者を呼ぶ
- 保護者に連絡をする
- さらに人を集める（園内放送）

## 職員C「記録」

- 観察を開始した時刻を記録
- エピペン<sup>®</sup>を使用した時刻を記録
- 内服薬を飲んだ時刻を記録
- 5分ごとに症状を記録

## 職員D「その他」

- 他の子どもへの対応
- 救急車の誘導
- エピペン<sup>®</sup>の使用または介助
- 心肺蘇生やA E D の使用

## B

## 緊急性の判断と対応

- ◆アレルギー症状があったら5分以内に判断する！
- ◆迷ったらエピペン®を打つ！ 直ちに119番通報をする！

## B-1 緊急性が高いアレルギー症状

## 【全身の症状】

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便を漏らす
- 脈が触れにくいまたは不規則
- 唇や爪が青白い

## 【呼吸器の症状】

- 喉や胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳き込み
- ゼーゼーする呼吸

(喘息発作と区別できない場合を含む)

## 【消化器の症状】

- 持続する強い（がまんできない）お腹の痛み
- 繰り返し吐き続ける

1つでも当てはまる場

ない場合

## B-2 緊急性が高いアレルギー症状への対応

## ①ただちにエピペン®を使用する！

→ C エピペン®の使い方

## ②救急車を要請する（119番通報）

→ D 救急要請のポイント

## ③その場で安静にする（下記の体位を参照）

立たせたり、歩かせたりしない！

## ④ その場で救急隊を待つ

## ⑤ 可能なら内服薬を飲ませる

内服薬を飲ませる

↓  
事務室または、安静にできる場所へ移動する↓  
5分毎に症状を観察し症状チェックシートに従い判断し、対応する。緊急性の高い症状の出現には特に注意する

F 症状チェックシート

## ◆反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う

→ E 心肺蘇生とAEDの手順

## 安静を保つ体位

ぐったり、意識もうろうの場合



血圧が低下している可能性があるため仰向けで足を15~30cm高くする

吐き気、嘔吐がある場合



おう吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

呼吸が苦しく仰向けになれない場合



呼吸を楽にするため、上半身を起こし後ろによりかからせる

# C

## エピペン®の使い方

◆それぞれの動作を声にだし、確認しながら行う

### ①ケースから取り出す



ケースのカバーキャップを開け、エピペン®を取り出す

### ②しっかり握る



オレンジ色のニードルカバーを下に向け、利き手で持つ  
“グー”で握る

### ③安全キャップを外す



青い安全キャップを外す

### ④太ももに注射する



太ももの外側に、エピペン®の先端（オレンジ色の部分）を軽く当て、“カチッ”と音がするまで強く押し当てそのまま5つ数える

**注射した後すぐに抜かない！  
押し当てたまま5つ数える！**

### ⑤確認する



使用前 使用後

エピペン®を太ももから離しオレンジ色のニードルカバーが伸びているか確認する  
**伸びていない場合は「④」に戻る**

### ⑥マッサージする



打った部位を10秒間マッサージする

### 介助者がいる場合



介助者は、子どもの太ももの付け根と膝をしっかり抑え、動かないように固定する

必ず子どもに声をかけてから打つ

エピペン®を軽く押し当てた状態から打つ

### 注射する部位

- ・衣服の上から、打つことができる
- ・太ももの付け根と膝の中央部で、かつ真ん中（A）よりやや外側に垂直に注射する。

### 仰向けの場合

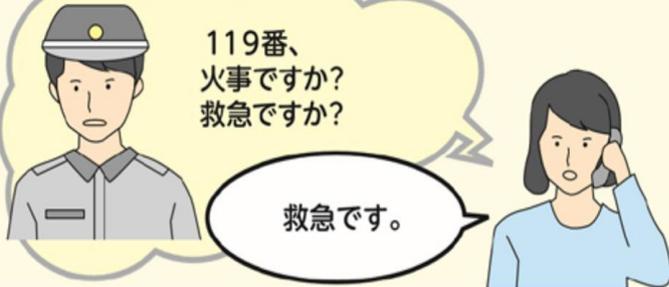


### 座位の場合

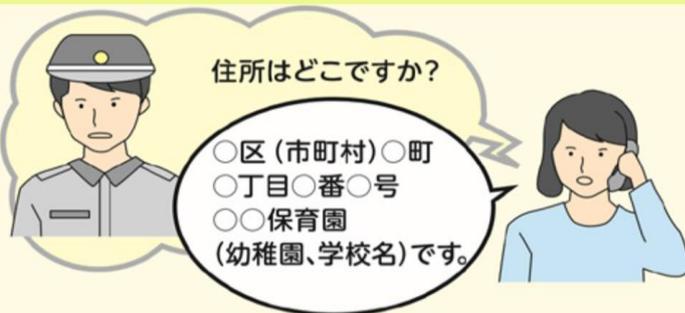


## D 救急要請（119番通報）のポイント

◆あわてず、ゆっくり、正確に情報を伝える

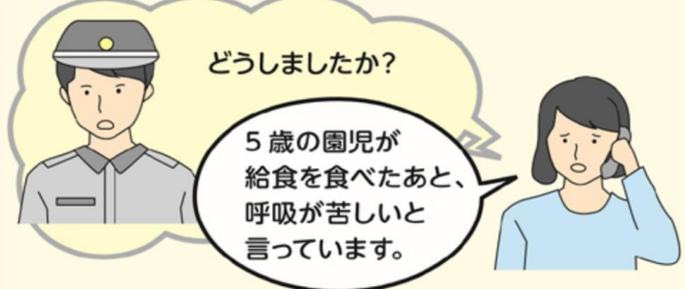


① 救急であることを伝える



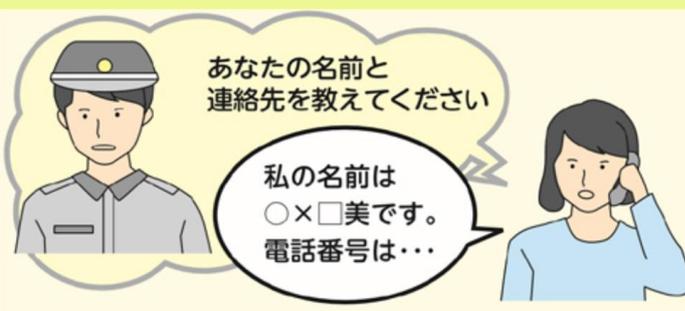
② 救急車に来てほしい住所を伝える

住所、施設名を予め記載しておく



③ 「いつ、だれが、どうして、現在どのような状態なのか」をわかる範囲で伝える

エピペン®の処方やエピペン®の使用の有無を伝える



④ 通報している人の氏名と連絡先を伝える

119番通報後も連絡可能な電話番号を伝える

- ※向かっている救急隊から、その後の状態確認等のため電話がかかってくることがある
- ・通報時に伝えた連絡先の電話番号は、常につながるようにしておく
  - ・その際、救急隊が到着するまでの応急手当の方法などを必要に応じて聞く

# E

## 心肺蘇生とAEDの手順

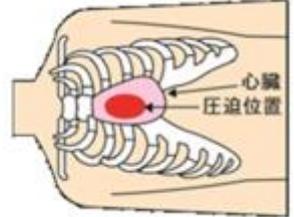
◆強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！

◆救急隊に引き継ぐまで、または子どもに普段通りの呼吸や目的のある仕草が認められるまで心肺蘇生を続ける

### 【胸部圧迫のポイント】

**①反応の確認**  
 肩を叩いて大声で呼びかける  
 乳幼児では足の裏を叩いて呼びかける

乳児 指二本  
 幼児 片手



反応がない

**②通報**  
 119 通報と A E D の手配を頼む

- ◎強く（胸の厚さの約 1/2）
- ◎速く（少なくとも 100 回/分）
- ◎絶え間なく（中断を最小限にする）
- ◎圧迫する位置は「胸の真ん中」

**③呼吸の確認**  
 10 秒以内で胸とお腹の動きを見る



### 【人工呼吸のポイント】

- 息を吹き込みむ際
- ◎約 1 秒かけて
- ◎胸の上りが見える程度

普段通りの呼吸をしていない

※普段通りの呼吸をしているようなら、観察を続けながら救急隊の到着を待つ



### 【AED 装着のポイント】

- ◎電源パッドを貼りつける時も、できるだけ胸骨圧迫を継続する
- ◎電源パッドを貼る位置が汗などで濡れていたらタオル等で拭き取る
- ◎6 歳くらいまでは小児用電極パッドを貼る。なければ成人用パッドで代用する。

**④必ず胸骨圧迫！可能なら人工呼吸！**  
**30 : 2**  
 ただちに胸骨圧迫を開始する  
 人工呼吸の準備ができ次第、可能なら人工呼吸を行う

離れて下さい



### 【心電図解析のポイント】

- ◎心電図解析中は、子どもに触れないように周囲に声をかける

**⑤AED のメッセージに従う**  
 電源ボタンを押す  
 パッドを貼り、AED の自動分析に従う

離れて下さい



### 【ショックのポイント】

- ◎誰も子どもに触れていないことを確認したら、点滅しているショックボタンを押す

# F

# 症状チェックシート

◆症状は急激に変化することがあるため、5分ごとに、注意深く症状を観察する

◆      の症状が1つでもあてはまる場合、エピペン®を使用する

(内服薬を飲んだ後にエピペン®を使用しても問題ない)

観察を開始した時刻 ( 時 分 )

内服した時刻 ( 時 分 )

エピペン®を使用した時刻 ( 時 分 )

## 全身の症状

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便を漏らす
- 脈が触れにくいまたは不規則
- 唇や爪が青白い

## 呼吸器の症状

- のどや胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 持続する強い咳き込み
- ゼーゼーする呼吸

- 数回の軽い咳

## 消化器の症状

- 持続する強い (がまんできない) お腹の痛み
- 繰り返し吐き続ける

- 中程度のお腹の痛み
- 1~2回のおう吐
- 1~2回の下痢

- 軽いお腹の痛み (がまんできる)
- 吐き気

## 目・口・鼻・顔面の症状

上記の症状が1つでもあてはまる場合

- 顔全体の腫れ
- まぶたの腫れ

- 目のかゆみ、充血
- 口の中の違和感、唇の腫れ
- くしゃみ、鼻水、鼻づまり

## 皮膚の症状

- 強いかゆみ
- 全身に広がるじんま疹
- 全身が真っ赤

- 軽度のかゆみ
- 数個のじんま疹
- 部分的な赤み

1つでもあてはまる場合

1つでもあてはまる場合

- ①ただちにエピペン®を使用する
- ②救急車を要請する (119番通報)
- ③その場で安静を保つ (立たせたり、歩かせたりしない)
- ④その場で救急隊を待つ
- ⑤可能なら内服薬を飲ませる

**B** 緊急性の判断と対応 B-2 参照

ただちに救急車で医療機関へ搬送  
職員は関係書類を持って救急車に同乗

- ①内服薬を飲ませ、エピペン®を準備する
- ②速やかに医療機関を受診する (救急車の要請も考慮)
- ③医療機関に到着するまで5分ごとに症状の変化を観察し、     の症状が1つでも当てはまる場合、エピペン®を使用する

速やかに医療機関を受診

- ①内服薬を飲ませる
- ②少なくとも1時間は、5分ごとに症状の変化を観察し、症状の改善が見られない場合は医療機関を受診する

安静にし、注意深く経過観察